

移駐反対を訴える市民集会在開催される



空中給油機(KC-130)に朱色で大きく×印がされたステージであいさつする下小野田実行委員長



沖縄在住の黒島善市さんは、「自分が嫌なことを人に押しつけるわけにはいきません。米軍基地はいらないと、しっかり言おうじゃありませんか」と訴えました。



2月26日、鹿屋運動公園陸上競技場で「在日米軍空中給油機部隊移駐に反対する市民集会」が開催されました。

この集会は、市民による市民レベルの集会を実施して、在日米軍空中給油機部隊移駐に反対する市民の意志を日本政府や在日米軍、米政府に届けようと開催されたもので、鹿児島もつき農業協同組合や鹿屋市町内会連絡協議会など約40団体でつくる実行委員会が主催。約8,200人（主催者発表）が訪れ、移駐反対を訴えました。

集会では、はじめに下小野田寛実行委員長が「市民一人ひとりが考え、行動することで大きな力が発揮できる。市民の声を日米両政府にしっかりと届けようではありませんか」とあいさつ。山下鹿屋市長も「市街地のど真ん中に基地があり、学校や保育園、病院などが基地を囲んでいる。年間47,000回の飛行が行われており、これ以上騒音や事故の危険性が増大することは、到底、容認できない」とあいさつしました。そして、伊藤鹿児島県知事から寄せられた「市民集会是地元が意志を示すということで大きな意味がある」としたメッセージが読み上げられ、沖縄在住の黒島善市さんが沖縄の現状を報告。さらに、周辺自治体を代表して野元錦江町長、鹿屋市民の声として、畜産業団体と町内会の代表が、そ

それぞれの立場から米軍空中給油機部隊移駐に反対する意見を述べたほか、子供たちからのメッセージもありました。

また、市民集会の決議として内閣総理大臣、外務大臣、防衛庁長官に対し「日本政府は、今回の在日米軍再編合意を見直し、基地周辺自治体や住民の立場に立ち、基地の真の整理縮小のため改めて米政府と交渉すること。とりわけ、空中給油機部隊の海上自衛隊鹿屋航空基地への移駐は行わないこと」という要求をとりまとめ、最後は、参加者全員で「ガンパロー」を三唱して、反対の氣勢を上げました。

「ガンパロー」を三唱して、氣勢を上げる参加者。

